

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	○	理念に恥じないように地域へ認められる活動を継続する。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	○	ケアカンファレンスや運営推進会議で、まずその人らしく暮らすことを支えるサービスの位置づけがスタートなのだと立ち返る会議を進行したい。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	○	地域に利用者が溶け込めるように、毎日の買い物や散歩に出かけるケアをより行っていく。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	○	、朝は玄関前や道路の清掃を行い、通りかかる方と挨拶する。夕方は新聞を取りに利用者で行く時に挨拶する。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	○	地域老人会の呼びかけがあるが、利用者が参加可能なことには取り組んでいきたい。(スポーツやハイキングは難しい。)職員がスポーツや学習会に参加はできる。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所内にある小規模多機能型居宅介護や一般認知症デイサービスや居宅との連携により、地域の高齢者のみならず、若年認知症への支援も考え相談を受けることがある。	○	グループホームだけにとどまらず持っている各事業の特性を生かしながら、そして協力することで相談させていただく内容が高度になっても対応できる力を養い活かしていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	意義は理解できている。評価を受けたら改善計画に従って改善を行っている。	○	改善計画はより計画的に行いたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中から新たな取り組み(例えば避難訓練に町内の人に参加していただいたり、家族会とともに研修会を開催したりしている。	○	今も行っている利用者参加をできるだけ継続し、利用者の声を取り上げていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	京都市、担当福祉事務所との連絡を必要時行っている。	○	担当福祉事務所主催の会(地域連絡会議)で、グループホームや他事業の紹介を行い、地域事業者や包括型支援センターへの伝達機能を果たしている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会に参加することもあり、必要な方には適応している。	○	一名の方が成年後見人制度を利用され、弁護士とのやり取りを行っている。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルは用意しているが、外部研修が近年なく、事業所内でも行ってないので、取組を考えていきたい。	○	夜間2ユニットに一人ずつの夜勤者を配置しており、夜勤の職員ストレスに配慮して、夜勤一労働にこの春から取り組んでいる。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定 重要事項説明書 入居契約書に沿って説明し理解していただいている。	○	できる限りの時間を使い行っていきたいし、必要な時は何回も説明を行う姿勢を持つ。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者並びにその家族が申し出た苦情は苦情処理簿に記入し解決して、その結果を利用者および利用者家族に報告している。それで解決できないときは、法人への相談や地域の福祉事務所に相談する。	○	真摯な態度で取り組みたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態は血液検査や服薬内容や金銭管理を年に二回、生活の様子や職員の異動はグループホーム広報(年に4回)で知らせている。また、急を要する健康状態はその都度電話またはファックスで連絡する。	○	緊急度に合わせてより行っていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	国保連や福祉事務所が苦情対応窓口であることは契約書に記載し説明している。	○	家族会への参加や面会がより活発になるように、働きかけ来訪された時に直接承る機会を持つ。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議 全体会議で行っている。	○	できるだけ行っていきたい。(ユニット会議は月に一回 全体会議は年に二回以上 緊急度が高いときは間をおかずに行う。)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要時早出時刻や遅出時刻を変更している。	○	利用者本位のケアに努める努力はしていきたい。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	実行している。	○	しかし、離職の理由は近年の福祉労働者が置かれている社会的状況に関してのことが多く、行政からの努力もしていただきたい。各事業所だけの努力では限界があるのでは思われる。職員の採用 育成 定着は早急に考慮していただきたいことで、地域の社会資源としての責任を継続して果たしていきたい。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実行している。</p>	<p>○</p> <p>外部研修 法人研修 事業所j内外研修の受講。個人的に受けたい資格への学習期間や受験への配慮を行っている。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者やリーダー職員等が、区役所介護保険課主催の地域連絡会議に出席できるようにしている。グループホーム協議会に参加して研修会 交流会に参加できるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>グループホームが地域において果たせる役割を認識して、地域での生活の継続そして認知症や高齢による障害を持っておられる方への相談機関であるようになりたい。職員や管理者への時間的余裕が少しでもできるように行政が計画指導していただきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>休憩室やロッカールームの設置、福利厚生</p>	<p>○</p> <p>管理者は急を要する職員個人の面接を行う。管理者がストレスについての研修を受ける。管理者は開設者や法人への報告、連絡、相談を行っている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者と管理者、管理者とリーダー職、リーダー職と一般職員は定期的に会議を持ち互いの把握に努めている。また、一同が出席する全体会議を開き、職員の意見を直接言える場を設けている。</p>	<p>○</p> <p>より計画的に行っていくため、年度計画そして準備、報告、振り返りを行っていく。</p>
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>センター方式アセスメントシートを活用し、状況の把握をして不安の除去や相談に対応している。</p>	<p>○</p> <p>毎月定期的に行っているモニタリングも活用しながら、その時その時の状況に応じて不安を解決していく。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用に至るまでの面接は自宅へケアマネジャーと一般職員が出向く。また施設見学もしていただきその折々に相談を受け、利用に対しての不安を受け止め、一緒に解決していく。</p>	<p>○</p> <p>介護計画サービスに反映させる。</p>

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅ケアマネジャーとの相談を密にすることで、必要なサービス提供を行う。	○	本人と家族の必要としている支援の相違にも配慮しながら行う。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学に来ていただいた時に、他の利用者とともに過ごす時間を設ける。また、お試し利用をしていただくことも可能。入居の時に自宅面接で居室に持ち込んでいただく馴染みの家具や品物や衣類など相談させていただく。	○	家族を伴ってのお試し利用をできる限りしていきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に生活することを築くために、本人の今までの生活を知り得意なこと望むことを基本に支えあう関係作りをする。時に職員家族も含めた交流の機会も設ける。	○	利用者と職員の関係は崩さずに、その時その時の話題から出る行動や会話を大切にすることが、喜怒哀楽を共にすることになっている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族会を作り定期的に参加を呼びかける。家族が来所しやすいように、面会時間の制限は大きくはない。	○	行事にも必ず家族への呼びかけをする。介護サービス計画書立案にしても家族との相談を行っている。年に一度は日帰り旅行も家族も一緒に参加して頂けるように計画していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一人の入居者とその家族と職員と一緒に誕生会が過ごせるように組み立てている。	○	この計画は続けていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住んでいた所の神社へのお参りや地元のお祭りへのできるだけの参加支援、知人の面会などへの配慮(ともに時間が過ごせるようにする)を行う。(初詣 お祭り 地蔵盆 運動会など付き添ってお連れする)	○	センター方式の活用でなじみの人や場所について調査をし活用している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気持ちを通じ合える関係の利用者は、その関係が続くようにセミパブリックスペースで過ごしていただけるように、また、居室内で過ごせるように支援する。セミパブリックスペースは二ヶ所ある。	○	趣味や性格や、共通の話がある場合には、関係作りを支援していく。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院された時には、お見舞いに利用者とともにいたり、家族が高齢で定期的な訪問が不可能な時は職員で行くことにしている。特別養護老人ホームへ入所されても、時々面会に行く。	○	永眠された時には、お通夜やお葬式はもちろん参加し、法要に呼ばれたこともある。個人を偲ぶことになるこういったことも大切にしていきたい。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族からの希望の聴取を大切にし、機会を設けて見直しする。	○	その時その時を大切にしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接(自宅)とセンター方式を活用して行うとともに、在宅ケアマネジャーとの連絡も行い把握に努めている。	○	利用者を一番知っておられる家族に情報をいただくことを、より行いたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	起床から就寝まで、利用者のペースで個人に応じて支援している。	○	基本的に昼食夕食は一緒にと誘うが、その時に関係利用者同士の関係作りをする。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケア担当とケアマネジャーとリーダーが主になって、家族との話し合いをしながら、ケア会議にかけて介護計画を作成する。意見やアイデアを大切に計画している。	○	家族への声掛けをよりしていきたい。職員が本人の代弁者でなく本人から家族への直接の話ができるようになるために。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	緊急を要する時には対処している。	○	より行っていきたい。(緊急の面接 ケア会議など)

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	実行している。	○	個人記録の活用をより工夫していきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームは多機能であり、多機能職員の育成により対処できている。醍醐の家ほっこりのグループホーム以外の事業との交換研修も行っており、グループホームだけでなく、在宅で暮しておられる方への支援の方法を学んでいる。	○	より実行していきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	現在交流を持っているのは、地域小学校 中学校 民生委員 ボランティア 消防である。	○	地域の町内会長や女性会 社会福祉協議会とも連携している。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	施設内のデイサービスや小規模多機能は利用したことがある。	○	希望者があれば醍醐の家ほっこりの事業だけでなく、利用していきたい。他事業所との利用料が折り合えば積極的に行ってほしい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	包括型支援センターからの問い合わせはあるが、こちらからの問い合わせは研修を行うことでしか行っていない。	○	運営推進会議から発信していきたい。(在宅へ戻るケースなど取り組んでいきたい。)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅におられた時の主治医を持たれる方、入院の必要性がある時にはこの病院など、家族の希望を大切に、嘱託医とその診療所や病院が連携できるように事業所が支援している。	○	家族協力を仰ぎながらより実行していきたい。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	<p>誤解が生じないように、できるだけ家族協力を得ながら行っていきたい。(精神科病院は受診への理解が必要である)</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>より行っていきたい。病院受診している利用者はその課の看護師に相談していきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>医療情報についてより詳しく得て、リハビリや健康上の注意を守りより早く元気になっていただけるように努力してきたい。病院からの医療情報や看護情報、こちらからの介護、医療情報のやり取りを密にしていく。病院の地域連携室とも連携させていただく。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>終末期を過ごすことも希望されるならば行っているの、より技術力やコミュニケーション力を高めていきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>変化に備えることは予測が必要であり、その力を培ってけるように、医療の学びも研修に入れていく。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	<p>予測できる力を養いながら(住み替えによるダメージがどのようなものか)対処してきたい。</p>



グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は個人情報の保護の誓約書を入職時に記入する。また時々において人権を守ることに付いて、ケア会議に入れ込んで意識を高めるようにする。	○ してはいけないことより職員は認識していくように、お互いが注意しあう雰囲気を作る。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	決定したような口調での話し方はせず、自己表現ができるように聞く姿勢をとることにしている。	○ 決定したような口調での話し方はせず、自己表現ができるように聞く姿勢をとることにしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールは、大まかにしか立てずその時の気持ちの表出によって、ペースを知り支援するようにしている。	○ その方法が職員の気持ち優先にならないように、努めて行っていく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	地域の美容室行って、毛染めやパーマやカットをされる方は、9人中1人である。	○ 入居前から行かれていた地域の美容室に行ける間は支援をしていく。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立から、買い物、食事作り、後片付けは利用者とともにやっている。	○ どんな場合にもできることではないが、できる限り行っていきたい。食事に関することは生活上の楽しみであったり、役割作りであったり、生活リハビリであったりと果たす役割は大きい。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒を飲むは、嗜み方を考慮しながら提供している。	○ 日常的までとはいかないが、楽しみの継続をしている。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	支援できている。	○	支援できている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴される方がおられるように、実行できている。	○	より入浴が楽しめるように入浴のタイミングや言葉かけや介助を行っていく。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ソファや小上がりを利用して、その時々に応じて休憩していただいている。	○	日中にリビングで休まれる時など、他の方との配慮、照明、音に注意している。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割は、花の水やり、食事関係、洗濯物たたみ、習字 掃除 楽しみ事は手芸 歌 カード遊び 散歩などその方が好むことや得意なことを提供している。	○	より種類多く提供していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	9人中1人は持っておられる。レクリエーションに出かける時には買い物用に個人にお金を持ってもらい使っていただく。	○	個人持ちをしたい方、その適応が家族も良いと思っておられる方に関しては積極的に持っていただくように働きかけたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	パン屋さんへのご返し、お店への買い物、新聞取り、急なお出かけなど対処できている。	○	遠くへの外出援助が職員の勤務状況でできない時もあるので、キャッチフレーズは近場でも良い一日一回外へ出ようとしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	特に以前行った思い出の場所に行くことを支援している。方法は日帰りや一泊旅行など、家族への呼びかけて行っている。	○	家族に理解をしていただき(家族が行かれたら利用者も行く気持ちになられる方もある。)、参加をより呼びかけていきたい。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。	○	継続してできるようにしていきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来られたら居室内で過ごしていただいたり、リビングで過ごしていただいたりお茶の用意をする。大勢で来られる時には、許す限り大勢が入れる部屋を用意する。	○	面会時間は社会的な許容範囲内で設けてない。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現在一名、安全確保の為に、家族の承諾書得て拘束帯を使用している。転落の危険がない時は拘束帯を外し、身体拘束をなくせるように取り組んでいる。他の方については、安全確保の方法を工夫して身体拘束をしないようにしている。	○	家族理解や協力も含めて説明をし、玄関の戸を日中は閉めてない。ベットの柵の使用など必要な時には、承諾書を書いていただいている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	家族理解や協力も含めて説明をし、玄関の戸を日中は閉めていない。施錠することの弊害を理解しているためである。	○	地域にも理解していただくように折があれば説明、同意を得ていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は巡視 日中は絶えず存在を確認している。	○	一人で外出される方については、外出を確認したら必ず職員がそっと後からついていく。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	取り組んでいる。まず、一回くらい異食などの行動があっても、すぐにはなくしたりしない。その時間が空腹なのか考えて、おやつを目につくように置くことで対処。	○	一人一人のアセスメントを重視し、ケア会議を中心に危険防止に取り組みたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	歩行器の利用 ベットの利用 履物の種類 夜間の排泄など一人ひとりに応じて取り組みさせていたいただいている。	○	知識はより得る努力をし、身近に事故が起こるかもしれない予想のもとに、起こった事故やヒヤリハットを職員全体の問題として、ケア会議で取り上げ対処を図る。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	定期的に行っているのは、一年に一回の事業所の取り組みとして普通救命講習を地域管轄の消防署から、受講しているが、定期的には職員個人で行ってもらっているために、事業所として対処していきたい。	○	ケア会議の中で定期的に行っていくシステムを作る。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域町内会の方とともに、管轄消防と避難訓練をしているが、日頃から訓練をするようにシステム化し、地域の人々にも協力が得られるように働きかけをしていきたい。	○	いざという時はいつ来るかわからないので、日頃から訓練をしていく。しかし、消防については避難訓練で指導を受けられるが、地震水害については、専門家による訓練内容の指導を行政を通して受けていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	個人面談や家族会を通して、リスクの説明そしてリスクの対応をするがために、利用者の生活抑制になっていないかどうか、検討している。また、玄関扉を閉め切ったままにしないことに関しても、共同生活であることの理解を家族にさせていただく努力をしている。	○	介護サービス計画書は、その方の望むことに関してのプランになっている。しかし、文章として家族にお渡しするには一番最適なので次回から文章での互いの確認をしていきたい。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタルチェックの方、週一回のバイタルチェックの方、毎日の水分摂取量チェックの方、全員の食事量のチェックと必要な方の排尿排便チェックの方とそれぞれ必要な方に実行。職員と家族と医師と看護師が共有し対応に結びつけている。	○	継続し速やかな対応をしていきたい。まずは異常がある時には家族への一報を速やかにしていく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容書きを職員の傍に置き、内容を確認して与薬し、効果や副作用の有無に注意し対応している。	○	薬内容の事については、訪問薬局の薬剤師や主治医へも聞くようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	水分補給 牛乳 ヨーグルト 食物繊維が多い食事の提供を行い、散歩や家事を毎日行っている。	○	介護度が上がってこれら歩行不安定になられる方が多くなってきたので、リビングで座ってできる体操を毎日行うように計画していきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	個人に応じて行っているが、毎食後にできないことも多い。	○	口腔ケアが必要な方には、介護スタッフが毎食後行えるようになりたい。自立されている方には、声掛けで行ってもらうようにしていきたい。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回の食事量や水分量をチェックすることによって、一日の必要量を摂取していただくようにしている。また、食事形態はその方に合わせて提供している。好むもの 好まないものにも留意して提供している。夕食は栄養士の献立で提供している。昼食はそのバランスを考えた献立をしている。	○	重度化があるので、より強化していく。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	社会的 地域的に流行の兆しがあれば、マニュアルに沿ってまたマニュアルをその時に必要なことに変更しながら、実行している。	○	感染症の流行は入居者の健康を脅かすし、職員が雇えば入居者の介護ができない。この基本的な事に立ち返り、予防に取り組む侵入を防ぎたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の衛生掃除そして、布巾やまな板の毎日の次亜塩素酸の消毒は継続して行っている。食材は貯めずに毎日買いものしている。又利用者にも毎食事前に、手の消毒を行っている。	○	より徹底していきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	4事業の玄関は共有であり、大きいためにグループホームとして親しやすさには欠けるかもしれないが、植木や、タペストリーやベンチを置くことで工夫している。	○	自動扉なので利用者に危険がないように注意していく。人通りが多い時など切っておく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、ソファやテレビを置いている。季節の飾り付けを行う。不快な音はないように、(テレビが不快になることもあることを考慮)注意している。眩しいほどの日差しはなく、緑を介してできるようになっている。	○	居間で過ごすことが楽しいように、また居心地が良いように利用者の様子を見ながら工夫していきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	セミパブリックスペースは、一カ所ある。	○	セミパブリックスペースがより過ごしやすいうように、本 壁掛けの絵や手芸クッションや照明等に留意していきたい。

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内はこちらからのお仕着せの家具調度でなく、使い慣れた物を持ってきていただいている。事情により持ち込みが不可能な方には、馴染まれるような物を相談の上購入をお願いし、職員側でも購入のお手伝いをする。	○	介護度が上られると居室内調度(ベッドなどの搬入や畳から床材に変更など)に変化があるが、その方らしくそして季節感が感じられるように配慮(季節の飾り物 懐かしい写真や絵や書など)する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中そして夜間とエアコンの調節を行っている。動き仕事をしている職員の感じ方でなく、温度計の設置や、利用者の声や体調に留意して行っている。	○	暑い季節 寒い季節は換気を嫌がられる利用者が多いが、大切なことなので、計画的に実行していく。例えば、朝夕 30分ずつとか嫌がられる利用者にもその間、リビングへ誘導するなどして、実行していく。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全留意した建物であると思うが、地域協定もありすべてが自立した生活ができるようにはなっていない。(窓にブラインドがあったり、窓を開けない。屋上に高い壁。換気扇をつけない。)そのために、窓が開放しにくかったり、匂いが除去できない。ベランダからの風景が限られる。	○	利用者や家族等に理解していただくように働きかけ、その中で工夫していく。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	行っているが、不十分なことも多く、混乱が起こることもある。認知症介護の学びをより行い、家族への報告や協力も得ながら、行っていきたい。	○	必要な時には家族との緊急カンファレンスを行う。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	日中は鍵をかけず、建物の外へ出ることが可能で、一人で行かれる方は一人のみだが、他の方は付き添って、ベランダや外周を楽しまれる。	○	畑があったり、山並が見えたり少しでも多く外へ行かれる援助をしていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

グループホーム醍醐の家ほっこり(あさひ)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の生活が、管理されている生活にならないように注意しながら支援していく。また、地域や家族の協力を得ながら、入居者とともに暮らすことを継続していく。職員がこの職場で働き続けることに生き甲斐を持てるように、環境や関係の調整に努力していく。